

## 第5学年音楽科学習指導案

### 1 題材名 詩と音楽を味わおう

教材名 鑑賞「待ちぼうけ」(北原白秋 作詞 山田耕筰 作曲)

「この道」(北原白秋 作詞 山田耕筰 作曲)

表現「海」(文部省唱歌)

### 2 題材について

《新学習指導要領とのかかわり》

A表現 (1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

B鑑賞 (1) ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

[共通事項] (ア) 速度 旋律 強弱

#### (1) 題材観

日本歌曲は時代背景を反映したものが多く、歌詞には作者の深い思いが込められている。我が国には、明治以来 100 年以上に渡り歌い継がれてきた優れた歌曲の作品が多くあり、日本語の美しい歌詞と、言葉のもつ語感を大切に作られた旋律とが一体となって、歌う人や聴く人の心を捉える。だが、外国の歌曲と同様に子供たちにとっては馴染みが薄い。決して平易ではない旋律の抑揚や深い意味を持つ歌詞やその発音など、表現することは難しい。子供たちがよく耳にするメディアに流されることはあまりなく、クラシックの演奏会などに自ら出向かない限り、耳にする機会もあまりない。親の世代にとっては既知のものであっても、核家族化や多忙化の影響で、人から歌い聞かせられた経験も少ないものである。たとえ耳にする機会があったとしても、子供たちの身近にあるような歌詞や旋律が明快で軽やかなものでもなく、歌詞が文語体であったり旋律も単調であったりするため、印象に残りにくいものとなっていると考える。

国際化が進むこの時代にあって、日本のよさを知っていることは日本人としての誇りをもつことにつながる。日本語の歌詞による、語感を大切にしたい美しい旋律の曲にふれ、広くそのよさを諸外国の人に語れるような姿を目指すべく本題材を設定した。伝統的な文化としての日本歌曲に対して児童が興味・関心を持ち、深く聴くことができるようにするとともに、根拠をもって自由に楽曲の演奏に関わることができるようにしたい。このことが、6年生で音楽的な根拠に基づいて、曲がもつよさについての考えをもつことにつながり、中学校で音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関りを理解することへとつながっていくと考える。

#### (2) 指導観

題材で取り上げる「待ちぼうけ」「この道」は、歌曲様式を確立した山田耕筰の作品らしい楽曲で

ある。それぞれの楽曲は、日本語の抑揚を生かした旋律とリズムで作曲され、児童に親しみやすく、楽曲の特徴や演奏のよさを自然に味わうことができる。実際に楽曲を聴くと、速度の変化やためをつくって歌うこと等、歌唱表現のよさなどに気付くことができる。そこで、詩の朗読から内容や語感に気付く活動や、聴き取ったことを歌い試したり歌って気付いたことを視点に鑑賞したりする活動を通し、語感と旋律や強弱のかかわりや歌詞の内容をもとにした間の取り方等の歌唱表現のよさなどに気付かせていきたい。

また、文科省唱歌の「海」は3拍子のゆったりした流れの中に、日本語の語感を生かして旋律が波のように上がり下がりしている。加えて、強弱のつけ方がフレーズごとに上がり下がりをするとともに、全体的にも大きな強弱の山がつけられており、楽曲にうねりを付けている。「この道」「待ちぼうけ」の鑑賞で気付いた、言葉と旋律のかかわりや強弱のつけ方、を生かして、自分たちの考えを生かして伸び伸びと表現できるようにしていきたい。

### 3 題材の目標

○詩の語感と旋律が一体となって生み出す日本歌曲の美しさを味わいながら、聴いたり歌ったりする。

### 4 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の 創意工夫	ウ 音楽表現の技 能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規 準	①詩と音楽が一体となった日本の歌曲のよさや特徴に気を付けて聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ②歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズムや旋律、フレーズを聴き取り、それらと強弱の変化とのかかわりあいを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。	①呼吸や発音の仕方に気を付けて、言葉の感じや曲想にふさわしい自然で無理のない、響きのある歌い方で歌っている。	①リズムや旋律、強弱の変化と歌詞とのかかわりに気づき、詩と音楽が一体となった日本の歌曲の美しさを感じ取ったり、詩の内容や音楽との結びつきを理解したりして、表現の工夫を味わいながら聴いている。

### 5 視点について

#### 【視点2 音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て】

○詩の朗読をさせる。

鑑賞の活動の導入として、歌詞の朗読を取り入れる。詩を朗読することで自分の読んでいる言葉のリズムや抑揚が、自然と旋律や強弱に結びついていると気づくようになると考える。そこでは、言葉の抑揚に気付くことができるように、特徴的な場面を抜き出して感情を込めて読んだ場合とそうでない場合を比較したり、楽譜と見比べたりさせる。そうすることで、児童は与えられた視点だけでなく、自ら気付いた視点で表現方法を見直したり鑑賞したりすることができると思う。

○歌い試しながら体感的に楽曲の特徴に気づかせる

詩に使われている言葉の語感（アクセントやイントネーション）と、旋律の上がり下がりが一体となっていることや、速度が徐々に落ちていったり音楽に間が空いたりすること等に気付かせていくことで、鑑賞の際の視点にさせたい。そのために、まずは自分たちだったらどのように表現するかを考えさせるため、グループで歌い試す場を設ける。さらに、誰かの表現の仕方を引用して、全体で歌い試す場も設けて、考えの共有も図っていく。そうすることで、自らの歌唱表現を工夫していく視点を得ることにつながり、そこから取捨選択しながら自分の考えを生かした表現にしていくことができるようになると考える。

## 6 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
1	1	ねらい 日本語の言葉の感じを生かした歌曲を楽しもう ○言葉の抑揚やリズム、語感を感じ取りながら、詩の内容を捉える。 ・「この道」の詩を音読し、内容を捉える。 ・抑揚をつけた場合とつけなかった場合で読み比べる等をして、発音や抑揚のつけ方を知る。  ○言葉の感じと結びついた旋律のよさや楽曲の特徴を感じ取って聴く。 ・自分たちの考えを生かして歌う。 ・鑑賞用CDの「この道」を聴く。	詩と音楽が一体となった日本の歌曲のよさや特徴に気を付けて聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	2	○「待ちぼうけ」の詩の内容を捉える。 ・挿絵を見ながら物語の全体像を知る。 ・朗読しながら言葉の抑揚を感じ取る。  ○「待ちぼうけ」の旋律を知る。 ・ピアノ演奏で旋律を知り、口ずさむ。 ・1番～4番を、自分たちの考えを生かして歌う。	歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
	3 本時	○グループで「待ちぼうけ」の5番の歌い方について考える。 ・自分たちの考えを出し合って歌い試す。 ・他のグループの表現を聴く。 ・他の考えを全体で試す。  ○範唱CD（5番）の歌い方を聴く。 ・自分たちの表現との違いや似ているところを発表する。 ・取り入れたい表現方法を発表する。	リズムや旋律、フレーズを聴き取り、それらと強弱の変化とのかかわりあいを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもって歌っている。(音楽表現の創意工夫)

4	<p>○曲想や表現の工夫を味わって、「待ちぼうけ」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を振り返りながら、どのように歌われているか見通しをもつ。</li> <li>・1番～5番までを通して聴く。</li> <li>・ワークシートに気付いたことを書き、発表する。</li> </ul> <p>○範唱CDから気付いたことをもとに、好きな場面を選んで歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな場面を選び、1番から5番までをつなげて歌う。</li> </ul>	<p>リズムや旋律、強弱の変化と歌詞とのかかわりに気付き、詩と音楽が一体となった日本の歌曲の美しさを感じ取ったり、詩の内容や音楽との結びつきを理解したりして、表現の工夫を味わいながら聴いている。(鑑賞の能力)</p>
2	<p>5</p> <p>ねらい 歌詞の表す情景を思い浮かべながら、旋律の音の上がり下がりや強弱記号に気を付けて歌おう</p> <p>○「海」の歌詞を読んだり範唱を聴いたりして、楽曲の特徴を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を朗読して、言葉の抑揚を感じ取る。</li> <li>・範唱を聴いて主旋律を知る。</li> <li>・楽譜を見て、気付いたことを話し合う。</li> </ul> <p>○「海」の歌唱表現の方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように歌ったらよいか、自分の考えを話し合う。</li> <li>・全体を通して歌う。</li> </ul>	<p>呼吸や発音の仕方に気を付けて、言葉の感じや曲想にふさわしい自然で無理のない、響きのある歌い方で歌っている。(表現の技能)</p>

7 本時の学習 (3/5)

(1) 本時の目標

○グループごとに歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫して気付いたことをもとに鑑賞する。

(2) 展開 (3/5)

時配 (分)	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
5分	1 今月の歌を歌う。 「にんげんっていいな」 2 前時に各自が行った表現の工夫を振り返る。	○大好きな歌を歌わせることにより、声を合わせて歌う喜びを味わわせ、音楽学習の雰囲気をつくる。 ○前時の活動で児童が考えた速度の変化・旋律やフレーズをもとにした強弱のつけ方・間の取り方等を振り返らせ、歌詞の意味を考えながら歌唱表現することを確認する。
5分	3 本時の目標を知る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">歌詞をもとにして自分たちの表現方法を考えよう</div>		
20分	4 どのように工夫して歌えばよいか考えて、グループで5番を歌う。 「前半は速めで、後半をゆっくりにしてみよう。」 「「木の根っこ」はかなり弱くていいと思う。」 「みんなで間をそろえるのは難しいね。」	○活発な意見交換を促すために、意見を引き出せる児童を中心に、意図的に4人程度のグループを組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ◆リズムや旋律、フレーズを聴き取り、それらと強弱の変化とのかかわりあいを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。                          (音楽表現の創意工夫)                          &lt;発言・表現の聴き取り&gt;                     </div> ○自分の考えをもつことが難しい児童には、ワークシートや掲示物を参照させて強弱・速度・間の取り方について考えさせたり、工夫しない場合と比較させたりする。
10分	5 抽出グループや特徴的な考えを歌い試す。 「後半をゆっくりで弱くして、悲しい感じ。やってみよう。」 「最後だけかなりためて、急に速くしているから、「おしまい！」って感じがするね。」	○グループをまわり、歌詞をもとにした強弱のつけ方や速度の変化等について、特徴的な考えのものを発表させ、全体で共有させる。 ○あえて特徴的な変化を付けないものや、逆の表現になるものを試行させ、感じ方の違いを比較させる。
5分	6 5番を鑑賞する。	○速度・強弱・間の取り方等、歌詞をもとにした音楽表現のよさなどについて、ワークシートに書かせる。

「待ちぼうけ」

北原白秋作詞

山田耕筰作曲

五、待ちぼうけ

待ちぼうけ

もとはすずしい きび畑

今は荒れ野の ほうき草

寒い北風 木の根っこ

①速さや強弱など気付いたことを、線を引き入れてみよう。

(音楽記号 言葉など)

②歌った感想を書きましょう。

③聴いた感想を書きましょう。

5年 組 番 名前

---